

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価 (p)は昨年度との比較で、増減ポイントを表す			
リーディング ハイスクール 事業の推進 ① 中高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高一貫教育高のメリットを最大限に生かし、本校の活性化に役立てる。	評価指標 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が90%以上。 ○「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が90%以上。	評価指標による達成度 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒95%(+2p)・保護者95%(+2p)。 ○「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒97%(+2p)・保護者96%(+2p)。	総合評価 (評定) A (所見) ○学校生活や教育活動全般については、生徒・保護者共に「満足している」という肯定的な回答が95%以上で、評価指標に達していた。日々の授業や各学年の総合的な学習での取組、また充実した学校行事等、「城ノ内ならではの」豊かな教育活動の実現が95%という肯定的な回答に繋がったと考える。	○生徒、保護者とも高い数値が出ているのは、満足度が高い証拠である。高い評価を進展させることは難しい。今後はパワーを下げながら維持していく必要がある。 ○今年度から導入した45分授業の成果、総括が未反映となつている。満足度だけでなく、学力・意欲・時間創出の効果検証が必要である。 ○入学直後の異校出身者間の人間関係構築が必要であり、学習進度の速さや、意識の違いにより、居づらさを感じる生徒が一定数居る。ホットルーム等の異学年交流を積極的に実施することが大切である。 ○6年間の接続を追求していくことが大切である。「探究ゼミ」は本校の目玉となるので、取組をもっと保護者へもアピールしてほしい。	○中等教育学校に完全移行して3年が経過し、中等教育学校としてのミッションを意識した教育活動が前期・後期課程6年間を通して展開されつつある。今年度より校時を45分に変更し、生徒の主体性を伸ばすため新設した「うっちなタイム(UT)」や探究活動の改革等、新たなプロジェクトが展開された。前期・後期課程全教職員が協働し、それを軌道に乗せるため全教職員で取り組んでおり、おおむね高評価を得た。しかし、一方で改善すべき点も出ており、生徒の発達に応じた支援を見極めていく。 ○前期生と後期生の良好な関係が更に深まるような取組を充実させていく。 ○PTA活動においても、前期・後期が連携し、風通しの良い関係を構築しながら共通理解を図り、新たな活動を実践する。次年度も各部の特性を生かしながら状況に応じた活動ができるように意思疎通を心がけ、課題に対しては臨機応変に対応する。
	(下位組織レベル) ○前期・後期合同での月例運営委員会や職員会議の活性化。 ○前期生と後期生の良好な関係構築。 ○PTA活動の充実。	活動計画 ①前期・後期職員が合同で行う会議は、年間25回以上、中等教育学校としての体制をさらに強化するため、推進委員会を実施する。 ②前期、後期合同の行事・作業・部活動・交流を行う機会を積極的に創設し、連携の深まる内容とする。 ③PTA役員会を必要に応じて適宜開催する。	評価指標による達成度 ①前期・後期職員が合同で行う会議は、年間25回以上実施した。 ②体育祭や文化祭、また、予餞会や総合学習・探究での発表会などでは全学年が交流できている。 ③前期・後期合同PTA役員会を年4回実施し、各課題について協議した。			
リーディング ハイスクール 事業の推進 ② 確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。	評価指標 ○「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者・教職員が85%以上。	評価指標による達成度 ○「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒95%(+2p)・保護者91%(+2p)・教職員100%(±0p)。 ○「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者91%(+2p)・教職員100%(±0p)。	総合評価 (評定) A (所見) ○本校生徒の学習面における課題を教員間で共有することにより、本校生徒の課題に対して有効な手立てを講じながら授業改善に取り組むことができた。 ○外部講師を活用した取組は、生徒の興味関心を刺激し、学びを深める良い機会となっている。 ○各種検定の受検を学習の励みとし、取り組んでいる生徒の割合が昨年度と比べ若干減少している。検定試験に向けた学習が、学力向上や学習の動機付けになることを生徒へさらに周知していく必要がある。	○教職員の数値が高いのは、モチベーションの高さである。先生方の意識の高さがうかがえる。非常に素晴らしいことだ。 ○「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」という質問に生徒からの評価も受けるべきである。 ○「生徒は基礎的・基本的学力が身につけている」という質問の保護者の数値が低いのは期待の表れであるが、数値が下がっているのは原因を追究し改善策を検討する必要がある。	○生徒が基礎的・基本的な学力を身に付けるため、基本的な学習習慣を定着させられるような手立てを工夫し、支援を実施する。 ○外部講師の活用については、ICTも有効活用しながら、専門家から直接学ぶことができる機会を増やすとともに、多様なテーマを設定し、講師の選定と継続的な実施を目指す。 ○各種検定の受検の意義について生徒に周知するとともに、受検者、合格者が増加するような手立てを工夫し、支援を行う。
	(下位組織レベル) ○研究授業・授業研究会の実施。 ○外部講師を活用した授業の実施。 ○進路情報の積極的な発信と教職員の進路指導のスキルアップを図る。 ○各種検定への参加。	活動計画 ①研究授業・授業研究会を前期、後期合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③外部講師を活用した授業を年間10回以上実施し、効果を検討する。 ④生徒・保護者に向けた進路情報の提供および職員向けの研修会を実施する。 ⑤各種検定の受検の意義について生徒に話す機会を設け、各種検定を積極的に実施する。	活動計画の実施状況 ①前期・後期合同の研究授業・授業研究会を2学期に実施した。授業公開週間を設定し、異なる課程の授業を見学した。 ②授業評価を年2回実施した。 ③総合的な学習の時間やHRの時間を中心に、外部講師を活用した授業を、年間10回以上実施した。 ④学力推移調査の分析会を実施し、本校生徒の課題について教員間で共有を図った。また、進路課だよりを配布し、進路や学習に関する情報を提供した。 ⑤漢字検定(2回)、数学検定(2回)、英語検定(2回)を実施した。			

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価 (p)は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見		
人権教育の推進	(全校レベル) すべての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。	評価指標による達成度 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒94%(+1p)・保護者96%(+3p)・教職員100%(+27p)。	総合評価 (評定) A (所見) ○「人権に配慮した指導」については、生徒・保護者で若干減少した。学習面、部活動、生活指導などあらゆる場面で一人ひとりの生徒の思いに寄り添った教育が必要である。「自分や他者を大切に思う心や態度」では、生徒・教職員では少し減少している。生徒の自己肯定感を育むことを土台に、他者を大切に思う心や態度の育成を学習指導、生活指導など、すべての教育活動の中で取り組む必要がある。 ○6年間の中で、人間関係がうまくいかない場面に直面することもある。学校の中で、複数のコミュニティをもつことにより、居場所も増える。城ノ内はいろいろな教育活動に取り組んでいるので、居場所を複数もつことも可能ではないかと考える。	○生徒の数値が高く、自他共に大切にできる心が育まれていることが見て取れる。 ○生徒が抱えている課題のすべてに対応するのは難しい。こうでなければならぬと苦しんでいる生徒に視点を当て、さらに自己肯定感を育成できるように努めてほしい。 ○いろいろな角度から生徒一人ひとりに光を当てている。いろいろな活動がある意味が見られる。成功体験を積み重ねることが大切である。	○自他を大切にできる生徒を育ていくために、日々どのように取り組むべきか、教職員の認識や理解を深めていく必要がある。職員研修や授業研究を積極的に実施し、共通理解のもとすべての教育活動を行ってきたい。 ○社会の変化に伴って、社会や世界とのつながりを意識しながら、多様性を尊重し、お互いに違いを認めたり受け止めたりするための配慮や態度、行動を身につけるための学習内容や講演会等を実施する。 ○人権資料『わたしの願い』を活用して、より生徒の実態に対応した人権学習ホームルーム活動ができるよう、系統だった年間指導計画作成し、研究協議や事前研修会を充実させる。
	(下位組織レベル) ○ホームルーム活動や学校行事の充実を図る。	○「生徒は自分を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。	○「生徒は自分を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒93%(+2p)・保護者92%(-1p)・教職員100%(±0p)。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒92%(+5p)・保護者91%(-2p)・教職員100%(+4p)。			
		活動計画 ①人権学習についての研究授業、事前研究会を実施する。 ②人権意見発表会を実施する。 ③人権に関する講演会を実施する。 ④職員研修を年3回実施する。	活動計画の実施状況 ①各年次で研究授業・研究協議を実施するとともに、事前研修会を学年別に実施した。 ②前期生全員で人権意見発表会、人権集会を実施した。 ③人権問題講演会「障がいのある人の人権」(1年)、徳島大空襲経験者の語り部さんによる講演会(2年)を実施した。 ④前期・後期合同の教職員研修会を校内で2回の研修会を実施した。			
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。 いじめを絶対許さない。 安全教育を徹底し、事故防止に努める。 SNSでのトラブルをなくす。	評価指標 ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「生徒は学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒・教職員が70%以上。 ○「生徒は服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○「生徒は交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者88%(+6p)・教職員100%(+4p)。 ○「生徒は学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒87%(-3p)・保護者95%(+1p)・教職員95%(+7p)。 ○「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒79%(-6p)・教職員63%(+5p)。 ○「生徒は服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒94%(-1p)・保護者96%(-1p)・教職員90%(+2p)。 ○「生徒は交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒83%(-5p)・教職員68%(-10p)。	総合評価 (評定) B (所見) ○生徒の基本的な生活習慣の確立については、今後も学校・家庭の連携のさらなる強化に努めたい。 ○時間を守ることにしても、生徒・保護者・教職員とも昨年よりポイントが増加し、評価指標を上回った。時間に対する意識をより一層高めていきたい。 ○挨拶については、引き続き、指導やあいさつ運動などの取組を継続していきたい。 ○校則を守ることにしても、評価指標を上回っているが、生徒、保護者とも守られていると感じた割合は1%下がっている。引き続き、指導を継続していきたい。 ○交通ルールや交通マナーを守ることにしても、生徒、教職員とも昨年より大きく低下した。評価指標も教職員は下回った。地域の方や自動車運転者の方からはマナーの悪さが指摘されることが多い。今後も、学校周辺の道路事情や自動車運転者側からの視点などを説明し、ルール遵守、マナー向上につなげたい。 ○いじめ防止については、アンケート調査実施等により早期発見や生徒理解に努めているが、授業中や休み時間等の観察や教職員間での情報共有などを徹底していく。	○生徒の数値も向上しており、挨拶ができる生徒も増えていると感じる。生徒会の呼びかけや教職員の統一した取組が重要である。 ○重点目標と評価指標が一致していない箇所がある。SNSトラブルやいじめに関する評価指標入れるべきである。目標に対応した評価指標の再設計と設問の具体化が必要である。 ○基本的な生活習慣の確立は、学校だけではできない。家庭と連携して取り組む必要がある。	○服装・頭髪等の指導については、全教職員が共通認識を持ち、徹底してあたる。特に生徒指導課を中心に、学年間での連携をとった指導を強化する。 ○挨拶の大切さや交通ルールの遵守など日々の生活について、あらゆる機会を捉えて指導する。また、家庭との連携も図りながら、人格形成に努めていく。集団生活における規律ある行動や時間の遵守について、生徒会活動など生徒の自発的な活動から促せるよう、教職員自身が率先し、支援・指導していく。 ○いじめやSNSのトラブル等に関しては、今後もアンケートや個人面談等を活用するとともに、家庭との連携のもと全教員で早期発見・適切な対応に努める。
	(下位組織レベル) ○「時間厳守」の徹底。 ○「挨拶の励行」の徹底。 ○「服装頭髪」指導の徹底。 ○積極的ないじめやSNSのトラブルの認知と対応。 ○交通ルールや交通マナーの遵守に向けての取組推進。	活動計画 ①校内外での社会マナーの指導をする。 ②始業前着席を励行する。 ③あいさつ運動を実施する。 ④服装頭髪検査を定期的実施する。 ⑤毎月1回交通マナーアップ運動を実施する。 ⑥交通安全教室を実施し安全教育の徹底を図る。 ⑦学校生活に関するアンケート(いじめを含む)を年3回実施する。 ⑧携帯やスマートフォンによるSNSの使い方についての指導をする。	活動計画の実施状況 ①定期的に、朝の時間に教員が駐輪場の整理整頓を実施した。各行事を通じて社会マナーについて話をした。 ②教員が始業前に授業場所へ行くとともに、学級委員長・副委員長や生活委員が2分前着席を呼びかけた。 ③毎朝の教職員、生徒会役員などによるあいさつ運動を実施した。 ④日常的にまた学年等の集会時に、頭髪服装について指導をした。 ⑤登校時、毎月1回生徒指導課の教員が校外で立哨指導を実施した。 ⑥日常的にまた学年等の集会時に、自転車の乗り方や安全についての話をした。 ⑦学期に1回を基本とし、年に3回のアンケート調査を実施し、いじめ等の問題の早期発見や生徒理解に努めた。 ⑧4月には外部講師による、スマホ・ネット安全教室を実施した。教員は日常的に、また学年等の集会時に、スマートフォン・スマートウォッチによるSNSの使い方について指導をした。			

令和7年度 総括評価表

(評定)A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内中等教育学校(前期課程)

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 (p)は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見	
本県の重要課題を見据えた教育の推進	(全校レベル) 防災教育を徹底するとともに、主権者教育と消費者教育の推進に努める。 (下位組織レベル) ○防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。 ○関連授業や特別活動を通して、主権者意識と消費者意識を高める教育を充実する。 ○持続可能な社会の構築などの視点から、自立した責任ある消費者の育成に努める。 ○勤務の効率化を推進する。	評価指標 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「学校は授業やホームルーム活動等の中で、政治や選挙活動の話題を取り上げ、政治に関する興味関心を高める教育ができている」と答えた生徒・教職員が65%以上。 ○「授業や総合的な学習の時間を通して、エシカル消費への関心や消費行動の質が高まった」と答えた生徒が70%以上。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる。」と答えた教職員が60%以上	評価指標による達成度 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒88%(-4p)・保護者89%(+2p)・教職員100%(±0%)。 ○「学校は授業やHR等の中で、政治や選挙活動の話題を取り上げ、政治に関する興味関心を高める教育ができている」と答えた生徒70%(-6p)・教職員68%(-6p)。 ○「授業や総合的な学習の時間を通して、エシカル消費への関心や消費行動の質が高まった」と答えた生徒67%(+2p)。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる。」と答えた教職員63%(+9p)。	総合評価 (評定) B (所見) ○防災意識高揚及び防災の取組み推進について、教職員のアンケート結果で100%に達した。これは、継続的な防災への取組みの成果が現れたものと考えられる。一方で、保護者の値が減少しているため、積極的な取組周知が必要である。 ○2学年で身近な商品の購入場面を取り上げ、環境や社会に及ぼす影響について具体的に考えさせる取組を行い、授業後の振り返りでは80%以上の生徒が人や社会、環境のことを考えた買い物をしたいと答えた。しかし、エシカル消費への関心や消費行動の質が高まったと答える生徒が+2pという結果で目標の70%以上に到達できなかった。授業後の手応えと実生活での実践との差が課題である。	○取組は概ね順調である。このまま継続推進してほしい。 ○普段の生活がエシカル消費に繋がっているため、普段からの意識付けが大切である。 ○時間外勤務の縮減は、国全体で一般企業にも広がる見込みである。重要課題であり、統計的可視化が重要である。 ○昨年度と同様に、実際の災害発生時に近い条件を加えた避難訓練を実施することは、課題を洗い出すことに有効だった。次年度以降も工夫を重ね、有事の際の体制を強化する。 ○3年生の授業において、興味関心を高める工夫を続ける。また、選挙管理委員会など外部機関の出前授業を活用する。 ○探究活動の充実に伴い、消費者としてだけでなく、生産者や行政など様々な視点から地域経済を考える機会が増えている。その中で、いかにエシカル消費をポイントで捉えさせるかの工夫を検討する。
		活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ②地域との連携による防災活動(避難訓練、炊出し訓練など)を年2回実施する。 ③社会科の授業を中心として、模擬選挙などを通して選挙制度や政治参加の意義について話し合いを行う。 ④エシカル消費の実践に向けて、実生活と関連させながらICTを効果的に活用し、調べ学習や話し合い活動を行う。 ⑤勤務の効率化を促し、業務改善に取り組むとともに、長時間勤務の教員には、個別に面談を行い、改善策を具体化する。	活動計画の実施状況 ①②防災教育について新しい取組はないが、これまでに培ってきた地域住民との連携を深め、より実際に近い形を意識した防災訓練を実施することができた。計画外ではあるが、防災クラブの活動も年々充実している。 ③前期課程3年生の公民の授業で取り上げ、生徒の興味関心を高める機会とした。 ④本年度、探究活動に関する抜本的な改革を行い、特に前期課程においては地域をテーマとした。探究過程で、国のビッグデータ(RESAS等)を用いて地域経済の実態を調査する機会を設けた。特に消費者の観点では、消費者センター職員による講演会を開催した。		
環境教育の推進	(全校レベル) 環境教育への取組を推進し、学習の場にふさわしい環境を整える。 (下位組織レベル) ○清掃に積極的に取り組む。 ○ゴミの分別や節電・節水に取り組む。	評価指標 ○「生徒は清掃に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「生徒は清掃に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒93%(+7p)・保護者91%(+1p)・教職員90%(+7p)。 ○「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒91%(-1p)・教職員89%(-3p)。	総合評価 (評定) A (所見) ○日々の清掃活動から清掃ボランティア活動まで、生徒は比較的に積極的に清掃に取り組んでいる。 ○昨年度のアンケート結果では、生徒と教職員のアンケート結果はほぼ同じであり、共通した認識を持って取り組んだことで、意識と行動が大幅に改善した。	○環境への取組は意識をしないといけない。いかに意識を高め関心を持たせるかの工夫が必要である。 ○地域環境への関心と自己の捉え方も評価に含める視点が必要。意識向上と具体施策の強化をしてほしい。 ○中等教育学校への完全移行に伴うクラス数減少により、清掃場所に対して教員・生徒が足りない状況が生じている。生徒を交えて清掃分担・方法の再検討を行うことで、より主体的に清掃に取り組む姿勢などの意欲向上を図る。
		活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②使用水量、使用電力の推移をグラフ化して掲示し、節水・節電への意識を高める。 ③後期課程の吉野川堤防清掃活動に合わせて、前期課程は学校周辺の清掃活動に、年2回以上取り組む。	活動計画の実施状況 ①日頃からゴミの分別を推進している。特に学校祭では大量の段ボール等の廃棄があるが、生徒が主体となって丁寧に分別を行うことで、可能な限り資源ゴミとして搬出することができた。 ②使用水量、使用電力の推移をグラフ化して掲示したことで、節水・節電への意識を高めることができた。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動を年2回実施した。前期生は、中庭を中心に清掃をした。放課後の実施であったが、多くの有志生徒が参加した。		

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針	
		評価指標と活動計画	評価 (p)は昨年度との比較で、増減ポイントを表す			
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事、部活動等の特別活動を充実させ、学校全体を活性化させる。 (下位組織レベル) ○学校行事の内容の充実を図る。 ○部活動を活発にする。 ○生徒会・専門委員会活動の充実を図る。	評価指標 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が90%以上。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「生徒会・専門委員会は活発に活動している」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。	評価指標による達成度 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒95%(-2p)・保護者97%(+3p)・教職員96%(+7p)。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒94%(-2p)・保護者85%(±0p)・教職員100%(+4p)。 ○「生徒会・専門委員会は活発に活動している」と答えた生徒90%(±0p)・保護者93%(±0p)・教職員95%(+8p)。	総合評価 (評定) A (所見) ○昨年に引き続き、多くの学校行事がコロナ禍以前の形に戻ったことが、生徒や保護者の満足度に表れていると感じる。しかし、生徒がより主体的に活動できる工夫など内容の改善ができていないかとなるとまだ改善の余地があると思う。また、専門委員会の頻度を変更したが、活動内容に変化は見られていない。しかし、生徒が自覚と責任を持って活動できるなど、活性化につながっているかとなると改善の余地はあると感じている。	○学校行事が充実し、部活動や委員会活動が活発であることは、数値として表れている。 ○1年生から6年生までが一緒に活動している部もあり、6年間をスパンとして異年齢と交流ができることが強みである。 ○45分授業への移行で特別活動・委員会活動の活性化に良い影響が出ている可能性がある。そのエビデンスの整理が課題である。	○生徒がより主体的に、責任と自覚を持って活動するためには、生徒が学校行事の企画・計画段階から関わり、やり遂げることが大切になる。すべての行事といかなくても、できる行事からそのように活動している部もあり、主体的に自覚と責任を持たせたい。そのためにも教員側が1年間を見通しながら、早めに計画を立て実行していく必要がある。
		活動計画 ①学校行事は生徒が主体的に運営に携われるよう実施する。 ②部活動が活性化するよう広報やPRに努力する。 ③全生徒が参加して、専門委員会の話し合いを学期に1回行い、生徒が自覚と責任をもって活動できるようにする。	活動計画の実施状況 ①多くの行事がコロナ禍以前の形に戻り実施できた。また、その内容は生徒が主体的に活動しやすい内容になっていると感じる。 ②各部ともルールを守りながら限られた時間の中で熱心に活動し、好成績を上げることができた。また各部で学校生活全般の目標を設定し、それをすべての生徒が応援し、共に頑張れるよう、教室への掲示物も作成した。 ③専門委員会では各学期2回と変更したが、活動内容はこれまで通りである。			
開かれた学校づくりの推進と郷土愛を育む教育の推進	(全校レベル) 多くの人に本校を理解してもらうために、広報活動を充実させる。 地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。 (下位組織レベル) ○ホームページの更新回数を増やす。 ○学校公開、スクールガイド、小学生体験入学など広報活動を充実させる。 ○地域に根ざした体験活動・行事の実施。	評価指標 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「学校公開の日、文化祭の公開は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「小学生体験入学の説明会が分かりやすかった、授業がおもしろかった。」と答えた保護者・児童が90%以上。 ○「地域資源を活用した行事(阿波踊り、総学発表会等)が充実している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○「夏期講座(うっちーな体験塾)は本校の特色を理解してもらうことに役立っている。」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者90%(+2p)・教職員100%(+4p)。 ○「学校公開の日、文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者96%(-1p)・教職員100%(+4p)。 ○「小学生体験入学の説明会が分かりやすかった。」と答えた保護者99%・児童は94%。「授業がおもしろかった。」と答えた保護者は98%・児童が97%だった。(小学生体験入学アンケート結果より) ○「地域資源を活用した行事(阿波踊り、総学発表会等)が充実している」と答えた生徒92%(+1p)・保護者87%(-2p)・教職員96%(+7p)。 ○「夏期講座(うっちーな体験塾)は本校の特色を理解してもらうことに役立っている。」と答えた生徒100%(+2p)・保護者84%(-3p)・教職員95%(-1p)。	総合評価 (評定) A (所見) ○夏休みの特集ページ等、様々な試みや更新を頻繁にしたことで閲覧数が伸びている。 ○学校公開については、従来より高く評価されていたが、すべての職員が評価したことの意味は大きい。体育祭と文化祭の独立実施や新たな探究活動に対して、職員の共通理解が図られているものとする。 ○小学生体験入学アンケート結果では、「小学生体験入学の説明会が分かりやすかった。」と答えた保護者が99%・児童は94%。また、「授業がおもしろかった。」と答えた保護者は98%・児童が97%だったことから、本校の魅力が十分伝わっていると考えられる。 ○スクールガイドは城内LABの紹介や6年間を一貫通貫する探究活動のページを増やした。3年目の開催となった小学生体験入学も充実したものになった。 ○夏期講座(うっちーな体験塾)は、県内の大学や他機関の協力を受けながら、校外外で多くの講座を開講し、本校の特色ある学校行事の一つとして定着している。	○保護者から今年度はホームページの更新が早く様々な行事をアップしてくれた大変有り難かったという意見がある。今後も継続してほしい。 ○情報発信は好評で学校に対する理解促進に繋がっている。今後は更新体制と負担軽減、情報の埋没対策が課題である。	○新規ウェブページの利活用にあたっては、年度当初の職員会議などを通して、積極的な情報発信に努めるようお願いし、適宜の声かけも行っていきたい。 ○新規ウェブページの操作について、必要に応じて研修会を開催したいと考える。 ○文化祭や学校公開の日を新たな形で実施したことで、課題が明確になった。これを解決することで、内容の充実を図りたい。 ○小学生体験入学では、より分かりやすい説明会、よりおもしろい授業を提供できるよう工夫する。 ○本校の特色を分かりやすく伝えられるスクールガイド作りに取り組む。 ○夏期講座(うっちーな体験塾)は教職員の負担を考慮しながら、他機関の協力を得て、新たな講座の開設や講師の人材確保に努めたい。また、内容をさらに充実させ、生徒の興味関心を広げるきっかけとなるようにしていきたい。
		活動計画 ①ホームページの更新に全ての教員が関わり、週2回以上更新する。 ②学校公開は、本校を理解してもらえるよう工夫する。 ③スクールガイドや小学生体験入学は、本校に興味をもってもらえるよう工夫する。 ④阿波踊り・総学発表会等の地域資源を生かした多様な行事を実施する。 ⑤新たな講座を開講し、夏期講座(うっちーな体験塾)をさらに充実させる。	活動計画の実施状況 ①システムの刷新が行われ大幅な改修が行われたが、問題なく運用できた。多くの教職員が更新を行うことができた。 ②本年度、探究活動の抜本的な改革を行ったが、その一つとして探究活動最終発表会「探究フェス」を一般公開とした。1~5年生のすべての探究成果のポスター発表を実施した。 ③スクールガイドは本校の特色をより理解してもらえるよう改訂した。小学生体験入学は授業内容を工夫したり、在校生に実行委員として活躍してもらったりすることで、本校に興味と親しみを抱いてもらえるようにした。 ④総合的な学習で取り組むテーマが地元の魅力探究や防災、平和学習等バラエティ豊かで、各学年の行事とも結びつけながら進めていくことができた。また阿波踊りは有名連の本格的な踊り指導に生徒も真剣に取り組んでいた。			

令和7年度 総括評価表

(評定)A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内中等教育学校(前期課程)

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価 (p)は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見	
			⑤夏期講座(うち一な体験塾)は32講座、のべ447名の生徒が参加し、それぞれの興味関心を深めることができた。本校の特色ある学校行事の一つとして定着している。		